総合研究科目

前期課程 1期 | 総合研究 Ⅰ 研究方法論

複数教員制　　佐藤　一嘉 他

授業概要並びに到達目標

授業概要：
学術論文を書くためには、先行研究の理論や思考法を学修するだけでなく、自ら設定した研究テーマについて関連するデータを分析し論理的な構成に従って記述する力が必要である。本授業では、心得ておくべき基本的な研究姿勢、および修士論文作成の準備段階から執筆までの研究過程における基本的事項について学ぶ。
到達目標：
① 学術論文とは何かについて認識を深める。
② 研究における不正行為とは何かを理解する。
③ 適正な引用の仕方を会得する。
④ 学修した論文作成の手法を、自分の研究課題に応用することができる。
※ Google classroom に授業サイト「【院】研究方法論(2023-1 木1)」を設け、授業に関する連絡、資料や課題の提示等に使用する。初回授業の前日までに、履修登録者の nufs のメールアドレス宛に Google Classroom の招待メールを送るので、各自でアクセスして準備すること。

授業計画

1．オリエンテーション・研究計画と研究倫理概要(佐藤一嘉)(オンライン)
2．言語教育の分野における先行研究の探索(佐藤一嘉)(オンライン)
3．文学研究の一例、プルーストの研究(林良児)(対面)
4．文学研究、詩の分析(エリス俊子)(オンライン)
5．言語教育研究における質的研究(近藤有美)(対面)
6．国際開発領域のフィールド調査について(佐藤都喜子)(対面)
7．文学研究、ポストコロニアル理論(木村茂雄)(オンライン)
8．国際ビジネス領域、海外事業の展開(林慶雲)(対面)
9．通訳翻訳の理論と役割(浅野輝子)(オンライン)
10．応用言語学研究の成果発表(田地野彰)(対面)
11．現代日本語の分析(中北美千子)(対面)
12．第二言語習得について(高梨芳郎)(オンライン)
13．言語教育研究における量的研究(近藤行人)(オンライン)
14．国際政治学における研究と実務(山田文比古)(オンライン)
15．学生の研究発表とまとめ(佐藤一嘉)(オンライン)

成績評価基準

○平常点65％、期末レポート35％
○期末レポート
《内容》2023年９月に行う「修士論文・課題研究の構想発表・中間発表会」の予稿集原稿に準じたもの。
《分量》構想発表をする学生はＡ４で２枚、中間発表をする学生はＡ４で４枚。
《評価基準》必ずしも自分の専門に近い人でない読み手に対して自分の研究内容を明瞭かつ興味深く伝えられているか。

教科書(参考書)

なし

前期課程 1期(集中) | 総合研究 Ⅱ 量的研究法

籠宮　隆之

授業概要並びに到達目標

文科系の大学院生を対象とした、統計学の基礎講座である。
統計学を理解するための最低限の数学の知識、分散や正規分布の概念、分散分析等の統計的検定について学ぶ。集中講義ではあるが、実習形式で授業を進める予定である。
日本語教育学研究Ⅶ(データ分析法)と併せて受講することが望ましい。

授業計画

以下の項目を中心に、受講者の進度に合わせて講義する。
(15コマ)
1．Σ、n、変量など、統計学に必要な数学の基礎概念
2．平均値、分散、標準偏差などの基本統計量
3．正規分布と、その性質
4．データの標準化
5．相関係数
6．統計的検定の基礎
7．χ２乗検定
8．クロス表のχ２乗検定
9．中心極限定理
10．標準誤差と平均値の区間推定
11．１サンプルのｔ検定
12．対応のある２サンプルのｔ検定
13．対応のない２サンプルのｔ検定
14．分散分析
15．多重比較

また、受講者各自の研究テーマに則った実習も行う予定である。

成績評価基準

レポートおよび平常点による。

教科書(参考書)

教科書：
栗原伸一(2011)『入門統計学―検定から多変量解析・実験計画法まで―』、オーム社
山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎(2008)『R によるやさしい統計学』、オーム社
参考書：

金明哲(2007)『R によるデータサイエンス　-　データ解析の基礎から最新手法まで』、森北出版

前期課程 1期 総合研究 Ⅲ 質的研究法

近藤　行人

授業概要並びに到達目標

授業概要

質的研究は様々な方法で採取したことばをデータとして研究が行われる。この講義では、質的研究の研究プロセスを概観する。受講生は観察、或いはインタビューにより簡単なデータを採取し、そのデータ分析を行って最終レポートを作成する。

授業計画

1回　質的研究のイメージとその射程
2回　質的研究における認識論
3回　リサーチクエスチョンを立てる
4回　先行研究を調べる
5回　観察
6回　インタビュー
7回　文献講読(1)インタビューの当事者性と他者性
　　インタビュー(2)データの処理文字化とトランスクリプション
8回　文献講読(2)フィールドワークの手法による研究論文を読む
　　トライアンギュレーション
9回　文献講読(3)ライフストーリーに関する研究論文を読む
　　質的研究と倫理
10回　データの分析(1)データ分析の方法
11回　文献講読(4)SCAT を用いた研究論文を読む
12回　データ分析(2)演習
13回　質的研究を書く
14回　質的研究の評価
　　※ 第14回の講義は ZOOM によるオンライン双方向形式で実施します。
15回　調査の報告

成績評価基準

授業参加　20%
授業内課題　30%
最終レポート　50%

教科書(参考書)

教科書なし
参考書
太田裕子(2018)『はじめて「質的研究」を「書く」あなたへ』東京図書
大谷尚(2018)『質的研究の考え方―研究方法論から SCAT による分析まで』名古屋大学出版会
野村康(2018)『社会科学の考え方―認識論、リサーチ・デザイン、手法』名古屋大学出版会
他、随時講義内で指示する。

前期課程 1期 総合研究 Ⅳ アカデミック・プレゼンテーション

大岩　昌子

授業概要並びに到達目標

授業テーマ：わかりやすい研究発表をするためのスライドデザインを知る。

授業概要：

1．発表テーマを絞り、発表内容を企画する。
2．発表の重点ポイントなどを意識しながら、全体の流れを論理的に組み立てる。
3．２の設計を基に、PowerPoint を用いて実際の資料を作成する。この際、PowerPoint の使い方も学ぶ。
4．表現方法などを踏まえつつ、作成した資料を用いた発表を実際に行う。

到達目標：９月に学内で行われる中間発表を見据え、自分の研究内容を伝えるためのプレゼンテーション用資料を作成し、効果的に発表できる。

授業方法：教科書の内容を理解したうえで、パワーポイントなどの発表資料を作成、授業後半では、発表の訓練を行う。

ZOOM リンクなどの配布は Classroom から行うので、担当者からのメールを確認の上、自分で登録してください。

授業計画

第１回　オリエンテーション　「わかりやすい」スライド構成にするために
第２回　「わかりやすいスライド」とはどういうことか？
第３回　結論から全体の流れを考える
第４回　スライド情報を構造化する
第５回　スライドの情報をブラッシュアップする
第６回　わかりやすくするためのデザイン的手法
第７回　スライドを見やすくする配色の原則
第８回　伝えたいことを伝えるためのグラフの原則
第９回　伝わる表にするデザインの原則
第10回　図形や線を見映えよくする手法
第11回　伝えたいことを伝えるための写真とイラストの原則
第12回　「わかりやすい」スライドの評価軸
第13回　構造を把握できるスライドを入れる
第14回　意見交換(全面オンライン授業)
第15回　受講生による発表

成績評価基準

作成した資料と発表を総合的に評価する。

教科書(参考書)

教科書
宮野公樹『研究発表のためのスライドデザイン』講談社

各自、購入すること。

前期課程 2期 総合研究 V 比較教育社会学

大橋　保明

授業概要並びに到達目標

比較教育社会学研究は、国内および諸外国の教育制度や教育政策等の比較を通して現在の教育が内包する課題等を明らかにし、今後の教育改革の方向性を見出すことをめざしている。本授業では、「教育にかかわる比較研究」を共通テーマとして、各受講生の関心のある領域に沿って調査研究課題を設定し、最終的に研究論文を作成・提出する。また、調査研究の進め方や研究論文の書き方等についても適宜指導する。

授業計画

【名駅キャンパス／全員対面方式（第14回を除く）】

本授業は、全員参加のゼミ形式で実施する。

1．講義内容の説明と計画（第１回）

①自己紹介（卒論概要および修論構想を含む）、シラバスの確認等

2．比較教育社会学研究の基礎（第２回～第５回）

日本および諸外国の issue（論点）を比較・検討する。

①学校病理（いじめ、不登校、オルタナティブ教育）

②学歴社会（大学入試、国際学力調査）

③国際化社会（諸外国における教育改革、自律的学校運営、教育の質保証）

④労働と教育（ジェンダー、生涯学習）など

※取り上げる issue（論点）は、受講生の関心に応じて変更する。

3．比較教育社会学研究の応用（第６回～第９回）

現代の issue（論点）を比較・検討する。

①災害後のコミュニティ復興と教育の役割

②各国の大学入試改革

③外国人児童生徒の教育課題

④諸外国におけるいじめと体罰

※取り上げる issue（論点）は、受講生の関心に応じて変更する。

4．比較教育社会学研究の実際（第10回～第14回）

①調査研究課題の検討・決定（発表・コメント）

②～③調査研究の進捗状況報告（発表・質疑応答）

④～⑤調査研究の中間発表（発表・質疑応答・コメント）

※発表資料等はすべて Google Classroom 上に提出する。

5．講義のまとめ（第15回）

①成果発表（プレゼンテーション・質疑応答・コメント）

※第14週の授業は、全学方針にもとづきオンライン方式となる。初回授業の前日までに Google Classroom に招待するので、承認の上、ストリーム内の指示に従って受講すること。

成績評価基準

研究論文（16,000字程度）と成果発表プレゼンテーションを中心に、調査研究への取り組み姿勢や議論への貢献度等も勘案しながら、総合的に評価する。なお、本科目は、中学校及び高等学校教諭専修免許状（英語・国語）の取得に関わる「教育の基礎的理解に関する科目」であることを付記しておく。

教科書（参考書）

教科書：

原清治・山内乾史・杉本均編著『比較教育社会学へのイマージュ』学文社、2016年

参考書：

杉本均・南部広孝編『比較教育学原論』協同出版、2019年

長島啓記編『基礎から学ぶ比較教育学』学文社、2014年

日本比較教育学会編『比較教育学研究』（学術雑誌）、各年度

二宮皓編『新版世界の学校』学事出版、2014年　ほか

前期課程 2期 総合研究 VI 比較文化

船越　達志

授業概要並びに到達目標

①授業概要：

本授業では、中国古典小説の歴史を概観する。その上で各自が専門とする文学と比較し思考を深めてもらいたい。日本の文学、文化に関係するものなどにも、なるべく目を配り比較しながら講義する。

ただ単に文学史上の名称（作者・書名など）のみを覚えるだけではあまり意味が無いので、なるべく内容がわかるように講義する。日本語訳のあるものを中心に紹介し、他専攻の学生でもわかるよう配慮する。

第14週目は、大学の方針により全オンラインとする（Zoom）。その際、担当教員より授業直前にメールで必要事項を通知する。

②到達目標：

(1)中国古典小説史の基本的な流れを把握する

(2)その上で自ら興味ある文学と比較する

授業計画

第１回　講義内容の説明と計画・中国の古典における小説観

第２回　六朝の文言小説講義（「搜神記」など）

第３回　六朝の文言小説講義（「搜神後記」「幽明録」「世説新語」など）

第４回　小説原文（主に「搜神記」等）を、漢文訓読を頼りに鑑賞―「宋定伯」「黒衣客」―

第５回　六朝の文言小説と日本の伝承

第６回　唐代の小説講義（「杜子春伝」など）

第７回　唐代の小説講義（「離魂記」「鶯鶯伝」など）

第８回　唐代の小説と日本文学の比較

第９回　明清時代の文言小説講義（『聊斎志異』など）

第10回　明清時代の文言小説と日本文学の比較

第11回　白話短編小説・長編小説の講義
第12回　『紅楼夢』について―作者―
第13回　『紅楼夢』について―作品―
第14回　『紅楼夢』鑑賞（オンライン）
第15回　『紅楼夢』と比較文学（唐代小説・明代白話小説・日本文学）

成績評価基準

レポート

教科書（参考書）

資料を配布する（資料の配布等に GoogleClassroom を併用する予定）

前期課程 1期　総合研究 Ⅶ 情報発信のスキル

冨安　由紀子

授業概要並びに到達目標

発信する情報を的確に「相手に伝える」、その情報を「相手の記憶に残す」、そして、その情報で「相手を動かす」ためには、言語の表現力、論理的な構築力に加えて、視覚伝達の技術が有効である。不特定多数の相手に情報やイメージを伝える際に効果的な、情報発信の技術を体験的に学ぶ。
講義と演習を通して、視覚伝達に特化した情報発信スキルを習得する。具体的には、伝達内容に応じたテキスト、関係性の図解、画像の取り扱いなどを体験し、リーフレットやプレゼンスライドなど伝達媒体の構成ができるようになることを目標とする。
この授業では、プロフェッショナル向けのデザイン用ソフトウェアを使用し、演習テーマに沿って制作作業を体験しながら視覚伝達のスキルを獲得する。
＊履修学生は Adobe 社の Illustrator と Photoshop をノート PC にインストールする必要がある。

授業計画

第１回　導入講義
第２回　ことばにイメージを与える①色と書体
第３回　ことばにイメージを与える②紙面とレイアウト、色彩の活用
第４回　関係性の可視化①図解の基本：正確な伝達
第５回　関係性の可視化②イラストレーターを使ったチャート作成
第６回　関係性の可視化③図解の応用：複数の図解で連携する
第７回　関係性の可視化④図解の応用：イメージを伴う伝達
第８回　情報の編集①話順と紙面構成のサムネイル
第９回　情報の編集②イラストや写真の取り扱い
第10回　視覚ツールの総合的な活用①パワーポイントのデザイン
第11回　視覚ツールの総合的な活用②時系列に沿った組み立て
第12回　視覚ツールの総合的な活用③レイアウトのテンプレート
第13回　視覚ツールの総合的な活用④ノートの活用
第14回　視覚ツールの総合的な活用⑤オンラインでの使用
第15回　最終プレゼンテーション

成績評価基準

授業への発言や質疑による貢献度、課題の取り組みを平常点として評価する。

教科書（参考書）

指定教科書は無い。各授業で適宜、資料を配布する。

外国語科目

前期課程 1期 外国語コミュニケーション Ⅰ アカデミック・イングリッシュ

Simon J. Humphrey

授業概要並びに到達目標

This is a content-based course in spoken and written communication. For content, this course centres around the theme of language learning--a topic familiar to all students in this department--and aims at improving students' linguistic skills. Using language learning as a theme for discussion, students will not only improve and develop their fluency in English communication (reading and speaking), but also learn the skills necessary to acquire a second or third foreign language. This course will benefit teacher trainers as well as students who wish to be more effective communicators and (language) learners.

Students should spend 180 minutes outside of class reading, summarizing, and reviewing the reading material for their next class.

This course will involve reading 8-10 pages per week as homework. Students should be prepared to take an active role in the class discussions, debating the relevant issues they have read about. Students will learn to read with a critical eye, as well as form opinions based on sound judgement. Finally, based the notes taken in class, students will select one area of interest and write a long report about it. Guidance and assistance will be provided throughout the writing process.

授業計画

Week 1: Orientation

Weeks 2-12: Guidance for Report writing, Reading, Discussing, and Doing the 10 weekly reading worksheets Week 13: Submit report drafts

Week 14: Edit reports, feedback, and guidance. The 14th week will be taught online.

Week 15: Submit report

成績評価基準

・Ten Weekly reflection sheets: 50%

・Participation during in-class discussions: 20% ・Report: 30%

教科書(参考書)

'The Way of the Linguist: A Language Learning Odyssey' by Steve Kaufmann.

前期課程 2期 外国語コミュニケーション Ⅱ アカデミック・フレンチ

伊藤　達也

授業概要並びに到達目標

フランス語でアカデミックな文章を書く際に必要な技術を獲得する。フランス語でアカデミックなプレゼンテーション(筆記と口頭)をできるようになることが目標である。準備と復習(授業後の課題作成)に2時間必要である。

授業計画

第1回：導入、アカデミックライティングとは何か？　プリント配布

第2回：バカロレアの答案を分析する

第3回：アカデミックな場では何をどのように書くことを求められているのか？　3部構成の重要性について

第4回：なぜ3部構成が必要か(学術論文と雑誌記事の比較分析)

第5回：各パートで書く内容とは何か？

第6回：導入、本文、結論を意識しながら読む(ケーススタディ)

第7回：ビブリオグラフィーと注の役割

第8回：口頭発表とは何か

第9回：同じ構成だが、ビジュアル資料を用意すること

第10回：自らの論文に当てはめて考える(ケーススタディ)

第11回：資料の集め方、アンケートの取り方

第12回：質疑応答について

第13回：査読とは何か？

第14回：学会発表における注意点

第15回：まとめ

成績評価基準

授業への参加(50%)と課題提出(50%)

教科書(参考書)

適宜授業内で指示する。

前期課程 2期 外国語コミュニケーション Ⅳ アカデミック・ジャパニーズ

牧野　由美

授業概要並びに到達目標

日本語非母語話者を対象とした4技能(読む、書く、聞く、話す)向上のための総合練習。課題レポート作成を通して、問題を発見し、資料・情報の収集、分類、検討を行い、自分の立場を明確にした上で、反論を踏まえ、論理的に文章を展開しながら論証するという過程を体験する。その過程で4技能の向上を目指す。最終目標は、院生にふさわしいレポートの作成と口頭発表である。

授業計画

各自がテーマを設定し、そのテーマについて「知る」「練る」「調

べる」「絞る」「組み立てる」「書く」「推敲する」「発表する」「振り返る」というプロセスを繰り返し、最終的な課題レポート作成、口頭発表につなげる。「練る」「絞る」「推敲する」のプロセスでは、他の受講生からの質問、感想、意見を募ったり、テーマについて検討したりするピア活動も行う。

第１回　ガイダンスとテーマの設定
第２回　構想の発表と検討、資料の要約
第３回　先行研究紹介発表
第４回　分析的読解とパラグラフ・ライティング
第５回　レポート・論文の構成と表現
第６回　情報の収集と整理・要約
第７回　アウトラインの作成と発表・検討
第８回　レポート・論文の序論の構成と内容の検討
第９回　発表・論文の表現
第10回　中間発表と相互フィードバック
第11回　レポート・論文の結論の構成と内容の検討
第12回　最終口頭発表の内容の検討
第13回　最終口頭発表
第14回　レポート初稿の相互フィードバック（オンライン）
第15回　レポート原稿の修正とコースのまとめ

※ 受講者の人数および状況、既有知識、研究領域、希望などを考慮して内容を変更する可能性がある。

成績評価基準

授業への参加度および課題への取り組み（40％）、最終レポート（30％）、口頭発表（30％）

教科書（参考書）

必要に応じてプリントを配付する。

前期課程 2期 | 外国語コミュニケーション Ⅴ 英語通訳

浅野　輝子

授業概要並びに到達目標

国際社会で活躍できる通訳 基礎知識からトレーニング法まで

１：このクラスは、通訳の基礎理論を習得した後、実際に簡単な同時通訳ができるまでの能力を養成することを目的とした通訳入門コースである。
２：国際化が進むにつれて、異文化コミュニケーターとしての通訳の需要は年々高まってきている。
このコース終了後、学生が国際会議などのボランティア通訳、ガイド通訳、エスコート通訳として活躍できるようになる事。

基本は日進キャンパスのＥ30同時通訳室にて対面で行いますが、14回目の授業はオンライン（Zoom）で行います。

授業計画

第１回　履修に関するガイダンス
第２回　Unit 1 アテンド・随行通訳／通訳の技術 第１章 通訳の仕事（通訳方式による分類）
第３回　Unit 2 パーティ・レセプション通訳／通訳の技術 形態による分類
第４回　Unit 3 工場見学通訳／通訳の技術 第２章 通訳と言語
第５回　Unit 4 ビジネス・商談通訳／通訳の技術 通訳と翻訳
第６回　Unit 5 芸能・スポーツ通訳／通訳の技術 第３章 通訳の過程
第７回　Unit 6 ニュースのボイスオーバー／通訳の技術 第４章 理解
第８回　Unit 7 コミュニティー通訳（司法通訳）／通訳の技術 第５章 ノートのとり方
第９回　Unit 8 医療通訳／通訳の技術 ノートテーキング上級編
第10回　Unit 9 国際政治や軍事に関するトピックの通訳（会議通訳）／通訳の技術 第６章 再表現
第11回　Unit 10 Interview 対談通訳／通訳の技術 第７章 サイト・トランスレーション
第12回　Unit 11 セミナー・講演会通訳／通訳の技術 第８章 同時通訳
第13回　Unit 12 国際会議同時通訳／通訳の技術 第９章 英語学習への適用
第14回　通訳実践／通訳の技術 第10章 通訳者への道（オンライン）
第15回　まとめ

成績評価基準

授業中の通訳訓練、テキストの練習問題及び宿題の評価を全体の40％、通訳理論の理解、通訳実技で60％とする。

教科書（参考書）

プリント教材　及び　小松達也『通訳の技術』研究社（参考書）

前期課程 1期（集中） | 外国語コミュニケーション Ⅵ 英語翻訳

植松　靖夫

授業概要並びに到達目標

今年は「代名詞」と「関係代名詞」を中心に日本語らしい表現に意識を向けます。
５行から10行程度の短い英文を日本語に訳しますが、受講生の英語力は問いません。留学生にとっても日本人学生にとっても日本語の勉強になる授業を目指しています。
(1) 英文を達意の日本文に翻訳するための技術をパターン別に説明できる
(2) 演習により身につけた技術的知識をもとに日本語らしい翻訳の文章が作成できる
(3) 英文の実際上の最小単位である「paragraph」の仕組みにつ

いて説明できる

授業計画

1回　授業の内容と進め方について
2回　「無生物主語構文」の訳し方（形容詞＋名詞）：解説と例題
3回　「無生物主語構文」の訳し方：演習
4回　代名詞の訳し方（人称代名詞の場合）：解説と例題
5回　代名詞の訳し方（人称代名詞の場合）：演習
6回　代名詞の訳し方（that と one の場合）：解説と例題
7回　代名詞の訳し方（that と one の場合）：演習
8回　関係代名詞の訳し方（接続詞を補う場合）：解説と例題
9回　関係代名詞の訳し方（接続詞を補う場合）：演習
10回　関係代名詞の訳し方（一度切る場合）：解説と例題
11回　関係代名詞の訳し方（一度切る場合）：演習
12回　関係代名詞の訳し方（分解する場合）：解説と例題
13回　関係代名詞の訳し方（分解する場合）：演習
14回　形容詞・副詞の訳し方（no/many/few を含む文の場合）：解説と例題
15回　形容詞・副詞の訳し方（no/many/few を含む文の場合）：演習

成績評価基準

授業中に行なう「小テスト」（4回：100％）で評価します。全員が参加する「演習形式」で授業を進めるので遅刻・欠席はしないでください。
なお、単位とは無関係の聴講希望者は特に事前の許可は必要ありません。

教科書（参考書）

教科書は使用しませんが、教材はプリントを配付します。

前期課程 2期　言語文化研究 Ⅳ　応用言語学

田地野　彰

授業概要並びに到達目標

〈授業概要〉
本授業では、学際性という特性に焦点をあてながら、応用言語学研究を俯瞰する。応用言語学研究の成果を現実の外国語教育に活かす方法について検討する。事前学習には論文のまとめなどの作業で180分以上の準備が必要です。論文リストについては授業で紹介する予定。参考文献については「教科書欄」を参照のこと。
〈到達目標〉
応用言語学が対象とする各分野についての知識の習得をめざしながら、多角的視点からそれぞれの研究テーマについて理解を深めることをめざす。
〈授業方法〉
基本的に対面にて授業を行います（第14週目の授業はオンラインで実施予定）。なお、資料の配信については Google Classroom を使う予定です。

授業計画

1回　The scope of applied linguistics（応用言語学の研究領域）
2回　Linguistics and applied linguistics（応用言語学と言語学）
3回　Languages in the contemporary world（現代社会における英語の地位）
4回　Second language acquisition 1 : individual difference（第二言語習得 / 個人差）
5回　Second language acquisition 2 : motivation（第二言語習得 / 動機づけ）
6回　Language and communication（言語とコミュニケーション）
7回　Communicative competence（コミュニケーション能力）
8回　History of English language teaching（英語教育法の歴史）
9回　Practice of English language teaching（英語教育の実践法）
10回　Communicative approach（コミュニカティブ・アプローチ）
11回　Discourse analysis（談話分析）
12回　Language and culture（言語と文化）
13回　Intercultural communication（異文化コミュニケーション）
14回　Bilingualism（バイリンガリズム）
15回　（Report Presentation 課題研究発表）

成績評価基準

授業への積極的参加と発表など（50％）、最終レポート（50％）

教科書（参考書）

〈教科書〉
山内　進（2003）『言語教育学入門　―応用言語学を言語教育に活かす』大修館書店　978-4469244892

〈参考書〉
Johnson, K., and Johnson, H. (Eds.) (1998). Encyclopedic Dictionary of Applied Linguistics Oxford: Blackwell.
Tajino, A. (Ed.) (2019). A Systems Approach to Language Pedagogy. Singapore: Springer Nature.